

平成 19 年度 教師海外研修(派遣国: マレーシア)実践報告書

1. タイトル 知ることから始めよう～地球市民として生きること～
2. 氏名 濱田 浩子
- 学校名 大東市立灰塚小学校 担当教科 全教科
3. 実践教科 総合科 時間数 5時間
4. 対象生徒・学年 6学年 対象人数 37人

5. カリキュラム案

(1)実践の目的

現在、世界では「貧困・開発・環境」をめぐる様々な問題が起きており、これらの問題の多くは、私たち先進国の生活と密接に関わっている。そのことを知るために、マレーシアのパーム油の問題を紹介し、「自分たちの何気ない生活が世界中に影響を与えている」ことを子供たちに伝えたい。そして地球市民として、地球を守るために今私たちができることを考える。

(2)授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 限目 テーマ: マレーシアってどんな国? ねらい: マレーシアに興味を持つ。	(1) マレーシアの位置を確認する (2) マレーシアについての知識を確認する。	(1) 世界地図 (2) 国旗 (日本の他アジアの国々を中心に)
2限目 テーマ: マレーシアってこんな国! ねらい: マレーシアの生活や文化に親しむ。	(1) マレーシアボックスをクイズ形式で進めながら、マレーシアの文化を知る。 (2) 日本とのつながりを実感させるために、マレーシアで見つけた日本を知る。	マレーシアボックス ※別紙参照 (ビューバ)
3限目 テーマ:マレーシアの動物たちが! ねらい: マレーシアの動物が抱える問題を知る。	(1) マレーシアの動植物の多様性を知る。 (2) ボルネオ象とオランウータンの抱える問題を DVD と絵本から知る。	(1) 写真など (2) 宇宙船地球号 ビデオ オランウータンの絵本
4限目 テーマ:なぜこんなことに?? ねらい:パーム油とは何かを知り、本当に地球にやさしいのかを考える。	(1) パーム油とは何かを知る。 (2) 私たちの周りのパーム油に目を向け、この問題とのつながりに気づく。 (3) 動物だけではなく、人間も犠牲になっているという現状や先住民族の思いを知り、地球にやさしいと言えるのか、どうすべきなのかを考える。	・パームやしの種 ・パームやしの繊維で作られた箸 ・宇宙船地球号 ビデオ ・トップの CM (パワーポイント)

<p>5限目 テーマ:世界はつながっている! ねらい:様々な環境問題を地球規模で考える姿勢を養う。</p>	<p>(1) 世界で起こっている様々な環境問題を知る。 (2) 地球市民である私たちが、地球を守るために今できることを考え、セヴァンへ手紙を書く。</p>	<p>絵本2冊 「ハチドリの一としずく」 「あなたが世界を変える日」</p>
---------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------

6. 授業の詳細

1限目

① 国旗クイズ

② マレーシア認知度チェック「マレーシアは〇〇〇な国」、「日本とのつながりは？」

国旗クイズを楽しみながら、そのうちの1つ、マレーシアに興味を持たせた。そして、マレーシアについての程度知っているのかを確認するために、マレーシアのイメージと、日本とマレーシアのつながりについてどう考えているか学習カードに書き込ませた。(学習カード①)

【児童の反応】

マレーシアの国旗を見て、すぐにマレーシアとわかった児童は約半数であった。

マレーシアのイメージは、「貧しい国」「田舎な国」「暑そうな国」「ジャングルっぽい国」「真っ黒の人がたくさんいる国」「緑がいっぱいの国」「お祈りをする国」などが挙げられた。

さらに、日本とのつながりについてはほとんどの児童があると答えたが、ないと答えた児童も数人いた。

2限目

① マレーシアの生活や文化の紹介

② マレーシアで見つけた日本

マレーシアボックスを使い、マレーシアの生活や文化の様子を紹介した。3 大民族であること・イスラム教国であること・トイレ・食事方法・スポーツ・お金などを紹介した。さらに、マレーシアとのつながりを意識させるために、マレーシアで目にした日本の文化などを紹介した。

〈マレーシアボックス〉

① トウドウン,サロン,サロンリング(サロンをとめるアクセサリー),センス帽子,ハラルマーク,セパタクローのボール,3民族の写真,切手、

② ドラえもんの漫画本・DVD,軍票,壁画,日本人墓地の写真 (学習カード②)

【児童の反応】

子どもたちが一番盛り上がったのはやはりマレー語のドラえもんで、日本のアニメやゲームがマレーシアで人気があることを知ると、何となくうれしそうだった。

さらに、歴史的に見ても日本とマレーシアは占領というつながりがあることを壁画と軍票から読み取らせた。社会科の学習内容と関連づけることで子どもたちも真剣な顔になり、「今はマレーシアと仲良しなの？」などと心配する児童もいた。前時でマレーシアとのつながりはないと答えていた児童も、マレーシアと日本の文化的・歴史的なつながりに気づくことができた。

3限目

① マレーシア(ボルネオ島)の野生動物の紹介

(ボルネオ象,オランウータン,テングザル,ツノサイチョウ,ウミガメ,人面カメムシ)

② 罌のロープが巻きついた小象、すみかがなくなり追われるオランウータンの紹介

パームやしプランテーションを拡大するための森林伐採によって、野生動物たちの生活が影響を受けていることを知る。(学習カード③)

【児童の反応】

授業の前半は、野生動物の写真を笑顔で眺めていたが、後半は一転して児童の笑顔は見られなかった。それは、畏にかかった小象の話や住みかのなくなったオランウータンの話が児童にとって衝撃的な内容だったからだと思う。

感想には「畏をかけるなんてかわいそう」「畏にかかった象を助けてあげたい」「これ以上プランテーションを拡大する必要はない」などがいっぱいあった。また「なんでこんなことになるの?」と納得がいかず、信じられないといった様子の児童も多くいた。

そして授業の最後に「パーム油」という言葉を子どもたちに紹介した時、「パーム油」(もしくはパーム)という言葉を見たことのある児童は1人もおらず、全員「ん?」という表情であった。パーム油についての詳しい説明はせず、「次の授業までにパームと書かれてある商品を自分たちの生活の中から見つけよう」という宿題を出し、授業を終えた。

4限目

- ① パーム油ってな〜に?
- ② 日本でのパーム油のイメージ(トップのCM)
- ③ 先住民族の願い
- ④ パーム油をめぐる様々な立場の人たちとそれぞれの思い (学習カード④)

【児童の反応】

この時間は、内容が盛りだくさんで児童の集中が続くかが心配だったが、パワーポイントで写真や映像をたくさん見せたことで、最後まで真剣に話を聞くことができていた。

授業が進むにつれて、児童は「パーム油ってすごい油なんだ!」というプラスのイメージと「動物や先住民にとっては憎い油」というマイナスのイメージに困惑気味であった。さらに、私たちはパーム油のおかげで生活がなりたっている消費者であることを伝え、さらに複雑な表情になってしまった。

感想には、「動物や先住民族の村がなくなるなんてかわいそう」「悪いのはパーム油ではなく、自分中心の人間だと思う」「日本の環境にはいいけど、マレーシアの森林を伐採して作られているから地球にやさしいとはいえない」など6年生なりに気づいていた。

さらに、何かこの問題を解決する方法はないかという問いには、「パーム油の消費をなくすことはできないけど、少なくすることは私たちの努力でできると思う」「パーム油だけに頼らず、他の油を使えばいいと思う」「砂漠などの土地を改良して生産すれば、一石二鳥」などこちらもなるほど!と思うような回答があった。

5限目

- ① パーム油の問題のおさらい
- ② 世界に広がる環境問題(地球温暖化、森林伐採、野生動物の絶滅など)
- ③ 「あなたが世界を変える日~12歳の少女が語った伝説のスピーチ」(本②)
- ④ 今、私たちにできること「ハチドリのひとしずく」(本①)
- ⑤ セヴァンへお手紙を書こう

パーム油をはじめとする環境問題は、今世界でたくさん起こっている。世界の国はみんなつながっており、環境問題は1つの国の中だけの問題ではなく、地球に住むすべての人が考え、行動していかなくてはならない問題である。しかし、子どもたちはそのことをあまり知らない。そこで、地球市民としての考え方を提案し、自分たちは今何ができるのかを考えさせた。そしてまとめとして、児童と同じ12歳の少女セヴァンが「地球をこれ以上壊さないように」と世界へ送ったメッセージを受け、その返事として自分にできることを表現させた。そのヒントとなるよう「ハチドリのひとしずく」のいろいろなポトリを紹介した。

(学習カード⑤)

【児童の反応】

1秒に世界では森林がサッカーコート1面分ずつ消えているということやごみの問題などを知るたびに、子どもたちは驚きの声をあげていた。また、子どもたちは「地球市民」という言葉をすごく気に入った様子だった。

セヴァンへの手紙では、感心するほどのしっかり考えた子どもたちの言葉があった。

（セヴァンへの手紙）

○私に今できることは、森林からできたノートや教科書や鉛筆などを大切に使うことです。

それから、教室の紙ごみはリサイクルできるようにちゃんと箱にわけます。家でもごみを減らすようにします。今、私にできることはあまりないけど、それをあきらめずに続けることと、パーム油のこととか環境のことを周りの人に広めていきたいと思います。セヴァンさんの言うとおり、まずは1人だけ、行動してみます。

○ぼくは、地球がここまで大変なことになっているとは知りませんでした。今知れてよかったです。ぼくはセヴァンさんみたいに世界中の人に向けてスピーチしたりできないけど、自分の近くにいる家族や友達に環境について教えてあげようと思いました。動物や先住民族の人たちみんなが幸せに暮らせる地球になるといいですね。

7. 授業を通しての所感・反省点

今回、教師海外研修に参加して自分自身の感想としてまず一番に、「世界について、環境について何も知らなかったんだ、わかってなかったんだ」と思った。パーム油についてもこの研修に参加するまで、全く知らなかったし、パーム油という言葉すら聞いたことがなかったのだ。この海外研修で、私自身が感じた驚きを子どもたちにも体験させたいと思い、授業計画を立てた。とにかくいろいろなことを知ってほしかった。もちろん、子どもたちが知ったからといってすぐ行動に移せるというものではない。それもわかっていたが、知らないで行動に移せることは絶対にないと考えたのだ。さらに、より多くの人に知ってもらうため、マレーシアの授業を参観日に実施し、保護者の方にも伝えた。それを通して、家庭で地球環境のことが話題になることを期待した。保護者の中には、連絡帳などで反応してくださる方もいて、毎回やりがいがあった。やはり、子どもたちも保護者の方も知らないことが多かったようだ。その点では、「知ることからはじめよう」というテーマは大成功だと言えるのではないだろうか。

この授業を通して、私が子どもたちに教えることも多くあったが、逆に子どもたちから教えられることもあり、私も地球環境について見つめ、考え直すことができたように思う。これからも、この研修で学んだことを生かし、より多くの児童・保護者に地球市民としての生き方を提案していきたい。そして、地球市民の一人として、将来の子どもたちのために素敵な地球を残したい。

(※現在、担任学級のみでの実施だが、今年度中に他の3つの学級でも授業をする予定である)

